

Spotlight

スポットライト



バスケで広げる 笑顔の輪

profile
バスケットボールで心身の健康づくりを目的に洞爺中学校体育館を拠点として練習。現在は約20人が活動。

バスケットボールで地域のつながりを作る

TKC

タ 闇に沈みかけた洞爺中学校の体育館から響いてきたのは、コートの上でバスケットボールが弾む音と大きな笑い声。中で走り回っていたのは部活動の生徒ではなく、町内外から集まった大人たちでした。

洞爺地区でパン屋を営む今野満寿喜さんが、バスケットをやるうと知人に声をかけたのは10年以上前。運動不足を防ぐと気軽に始めた活動でした。

毎週木曜日に洞爺中体育館に集合。メンバーの多くは洞爺地区に住んでいます。中には函館から参加する人も。勝ち負けにこだわらず、体を動かす楽しさを大切にする方針が、様々なライフスタイルを送る人々を引き付けてきました。

メンバーの中にはバスケの未経験者が少なくありません。コートでは笑顔が絶えません。プレーを始める前に集合すると、全員が一言ずつ近況報告。趣味や仕事を話題に、自然と笑い声が広がります。

TKCの夢は、バスケの屋外用ゴールを買うこと。人気が高い野球やサッカーは、多くの選手を確保しなければ試合が成立しません。一方、バスケは1対1、3対3など小人数でも試合を組めることが特徴の一つ。少子化が進む中、球技に親しみにくくなっている現代ですが、その中でも子どもたちに楽しんでもらいやすいと考えました。

いざ試合が始まると、汗だくになってボールを追い駆けまわります。もともと目的にしている健康づくりは、みんながバスケットを楽しむ時間があればこそ。自身の名前がチーム名の由来となったキャプテンの青山剛士さんは「子どもと一緒に

に始めましたが、いつの間にか親の方が夢中になっていました」と笑います。

今年の春には、これまで集めてきた活動費の中から捻出した寄附金を洞爺中のために届けました。設備が老朽化していく中、少しでも子どもたちのためにスポーツの環境を整えてほしいと寄附を決めました。

東奔西走

パ レードの再開などコロナ禍前の形式を取り戻すことができたアニフェス。更衣室前には昨年より遥かに長い行列ができていて驚かされました。コスプレイヤーと記念撮影する外国人観光客もいて、大勢に楽しんでもらえたようです。(D・Y)

最 近は気温が上がってきて、夏の到来を実感するような天気が続いています。先日、ロングラン花火を見に行った際、ちょっとしたいい風が吹いていて、花火がよりきれいに見えました。いつかは遊覧船の上から見てみたいと思っています。(Y・A)

今月のワンショット



財田にある塩田さんの水田で行われたとうや小学校5年生の田植え体験